



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

研究主任研修会

平成26年5月12日（月）実施

対象：高知市立小・中・特別支援学校研究主任

「研究計画の策定と運用について」

講師：大阪教育大学 木原 俊行 教授

研修の目的

研究主題に迫るための「研究計画の策定及び運用」について学び、自校の研究をより効果的に推進するアイデアを獲得して、自校の研究計画を改善する



講話より

1 研究授業について、次の五つのポイントから見直してみよう。

教員の学びは〇〇されているか？

- ① 焦点化……それぞれの授業研究会のねらいがはっきりしているか。
- ② 視覚化……授業研究会のあと、振り返った内容を全教員が目にすることができるか。
- ③ 自己教材化…授業者は、事後研でアドバイスをもらった後、自分の考えや意見を文章にしているか。参観者は、参観した授業から学んだことを、自分の授業に置きかえて実践できることを文章にしているか。
- ④ 共有化……お互いのアイデアを参考にできる工夫があるか。
- ⑤ 多様化……いつも同じことをやるのではなく、いろいろな視点で研究活動を展開しているか。

2 事後研究協議では、次の六つのような問題は生じていませんか。

- 1 重たい沈黙が続く
- 2 授業者に対する個人攻撃が激しい
- 3 特定の発言者が長々と話す
- 4 いろいろな意見は出るが、まとまりがない
- 5 前回の授業研究会とのつながりがうすい
- 6 講師が授業とは関係のない話を聞かせてくれる

昨年度のアンケートの結果から、高知市の課題は4番と5番の二つ!!

● 4番を解決するためには…

「司会力」にかかっている。また、「自分化（自分の授業に置きかえて考えること）」の場面を設定する。

● 5番を解決するためには…

前回の校内研で話し合われた内容をホワイトボードにまとめ、次の授業研究会の前に確認する等、つなげるための工夫を形にしてみる。

グループ間交流・全体共有

【旭中学校の実践】

- ・ 事後研究協議を行う時のグループが固定化しないように、「血液型」や「星座」ごとのグループを設けたりと、教員の学びを「多様化」させるようにしている。そうすることで、教科や学年をこえての協議ができる。
- ・ 各学期に特色をもたせるために、4・5月を「学習規範・生活規範徹底ステージ」、6・7月を「イベント準備ステージ」というように分けており、校内研修の内容を「多様化」している。
- ・ 今年度は、公開授業をいつ・誰がやったのか分からない状態にしないように、公開授業の日程を組むようにした。



【潮江東小学校の実践】

- ・ 研究テーマに迫り，つながり・深まりのある研究ができるようにするために，前回の事後研究協議で出た課題を二・三個，模造紙に書いて残り，次の研究授業につなげる工夫をしている。
- ・ 校内研修会で研修し合ったことが，先生方一人ひとりの明日からの具体的なアクションプランになるように，事後研究協議に「自分化シート」を記入する場面を設け，研究授業を見て，明日から自分が取り組みたいことを二個書いてもらうようにしている。
- ・ 2月には，次年度の研究内容に即した提案授業を行っている。



講師による批評

研究推進リーダーに期待されるアクションの評価規準

同僚性構築力

全教員でがんばろうとする，一人の取りこぼしもなくやろうとする雰囲気を作る力，そのために一人ひとりの教員にていねいに接する。

段取り力

いつ，誰が，どのような内容の公開授業をするかなど，研究計画をていねいに構想・実施できる。学校の特徴・歴史を生かすためにも，かなり昔の研究紀要にも目を通す。

ネットワーク力

年度や学校をまたいでの研究を企画・運営できる力。そのために，後進の育成にも尽力する。

自分の学校に足りないものは？自己点検をしてリード力を確かめてほしい。

子どもの学力向上のために，教師同士の学び合いを一層充実させる。

最も大切なのは，参観した授業での学びや気づきを自分の授業にどう生かすか，を明らかにし，示すこと！

【受講者の感想】

- ・ 授業研究会をつないで，一年間の教員の学びが積み上がっていくことの重要性について学ぶことができた。まず，可視化に取り組みたい。
- ・ 研究計画の見直し，研究主任としての役割を再確認できたことは，大変意義深かった。
- ・ 自分に何が足りないのかを認識することができた。それは木原先生が示してくださった管理力（段取り力）である。研究を一步リードする，段取る力がないと研究は進んでいけないと感じた。